

企業名： 日本発條

レポート名： ニッパツレポート 2023

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解はできるが、現実的な実現に向かっていているとは言い難い。

「環境チャレンジ」や「人を大切にする」というマテリアリティに注力し、2016年に策定した「グローバル CSR 基本方針」に基づいて持続的に取り組んでいる姿勢は評価できる。しかし、取り組み状況を見る限り、環境面では2039年までにカーボンニュートラルを目指すとしても、2013年の155キロトンから136キロトンにしか削減されておらず、今後15年で劇的に削減するための具体的なビジョンは明確でない。また、「人を大切にする」方針も抽象的であり、どの会社でも行っているような施策にとどまっているように感じる。女性管理職比率や新卒採用における女性採用比率、男性の育児休暇取得率も低く、現代の基準に照らして不十分である。2030年度の目標数値も、男女平等を本気で推進するには物足りない印象を受ける。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

理解できる。

「技術のニッパツ」としての当社の姿勢がよく表れており、コア技術として掲げている5つの技術が優位性を示していることが分かる。代表取締役社長が開発畑出身ということもあり、研究開発に力を入れていることは伝わってきた。具体的には懸架ばね事業では国内トップシェアを誇っており、売上高の四割を占めるシート事業も品質国際標準の高さを強みとしており、取引先の日系自動車メーカーからの評価も高い。また、ハードディスクドライブの重要商品であるサスペンションは世界シェアの約半分を締め、高付加価値化を図っている点も評価できる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。

シート事業や自動車のモーターコアを主に提供する精密部品事業は自動車の電動化によって需要減少が見込まれるが、電気自動車用に対応するために積極的に開発投資を行っていることは理解できた。取引先のほとんどが日系メーカーという点が気付きであるが、今後海外自動車メーカーにも取引先を広げることが出来ればこれらの事業の持続性は担保されるであろう。DDS事業や産業機器ほか事業に関しては、今後市場での需要が高まることが予想されており、技術面で優位性があるうえに生産能力増強を見込んで設備投資を行っていることを考慮すると持続性が期待できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成は難しいと感じる。

人的資本の価値向上における戦略として「人材の確保と育成」「ダイバーシティ推進」「働き方改革」の3つをあげている。それらの具体的な取り組みがいくつかあげられているが、抽象的な内容であるうえに、当社独自の取り組みを行っているように感じる事が出来なかったため本レポートを読んだだけではイメージできなかった。これらの達成目標として指標をあげているが、限られたものであり前述した女性活躍推進のものとエンゲージメント診断結果のみとなっている。女性活躍推進の指標に関しては低い数値であり、エンゲージメント診断結果も100点満点で70点と高水準であるとは言えない。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

5つのセグメント(懸架ばね、シート、精密部品、DDS、産業機器ほか)の各技術的優位性、と持続性が明確に示されている。実際に市場占有率が高く、既存取引先からの評価が高いこともその裏付けとなっている。一方でサステナビリティに関する最重要課題として位置付けているCO₂排出量の削減と人材価値の最大化についてはこれまでの定量的な指標を見ると実現可能性があるようには思えず、それに対する具体的な対策戦略も欠けているという印象を受けた。環境面では現実的な数値目標を設定、人材面では反省指標の見直しやより具体的な施策の提示が改善の余地として挙げられる。